

聖書：求めなさい。そうすれば与えられる（マタイによる福音書 7 章：7 節～12 節）

1. チャペルについて

皆さん、入学おめでとうございます。

今、皆さんがいるこの建物をチャペルといいます。神戸松蔭女子学院のキャンパスの中で、一番美しい建物です。今、ここで皆さんと入学感謝礼拝という礼拝を行っていますが、このチャペルという建物は礼拝をすることを第一の目的に建てられた建物です。松蔭女子学院という教育機関において、何故、その施設の中央に、一番美しい建物であるチャペルが建てられているのか？ それは、一言で言えば、今から約 121 年前に設立された、この大学の前身である「松蔭女学校」の建学の精神を引き継ぐものと言えます。ヨーロッパの歴史ある大学の中心には必ずチャペルがありますが、それと同じように、キリスト教の隣人愛の精神に基づきつつ、「松蔭」と言う教育機関が設立されているということです。

2. 黙想について

この入学感謝礼拝を始めるにあたって、最初皆さんに少し黙想して頂きました。時間はほんの 1 分間です。一分間は普段ならあっという間に過ぎいってしまう時間です。しかし黙想の 1 分は結構時間があつた筈です。

このチャペルという天井の高い、ステンド・グラスの美しい建物の中に入り、パイプ・オルガンの演奏を静かに聞いている時、きっと他の大教室や体育館などでは味わえない、心の静まり、落ち着き、安らぎを感じられた筈です。またほんの短い時間の中で自分の心にある思いを反省し、焦りや不安を静める時間を見つけることができるということ、まずはその感覚を大切に頂きたいと思います。このチャペル入口にラテン語の言葉が記されています。それは「主を畏れることは知恵の始め）」という聖書の箴言 1 章 7 節の言葉です。畏れるというのは、恐がる、恐怖するというものではありません。自分を越えた大きな存在の前に、心を静め、そして安らぐことです。

皆さんの在学期間中、ぜひこのチャペルに親しんでいただき、ここに来て静かに座る、そして心を静め、自分の人生の意味について思いを巡らす、そうした場所として親しんでいただければと思います。

3. 臆することなく求めるには、心を開くこと

さて、先程、聖書を読んで頂きました。「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門を叩く者には開かれる」とありました。この御言葉はこれから本学院で大学教育を学んで行こうとする時、是非とも心にとめておいて欲しい言葉です。何故なら皆さんがこの松蔭女子学院に入学されたということは、これからこの学院での学びにおいて、そして自己実現に向けて大いに、力の限り、真剣に「求め、探し、そして門を叩いていく」ためです。そしてそれが臆することなく、常に前向きに、積極的に行っていくことが出来るための前提を先ほどの聖書箇所は教えているのです。それは神様への信頼です。自分は神様から愛されている、それを信じ、喜び、感謝していること、それが求め、探し、叩い

ていくことの原動力であり、そして応えられるための秘訣でもあります。今日の聖書は、人間の親でも、自分の子どもに何とかしてよいものを与えようとする。パンを欲しがっているわが子に石を渡したり、卵を欲しがっている子どもに、さそりを渡すような親はいない。子どもを愛しているからです。まして神様は、なおのこと私たちを愛しておられるということに目を向けさせようとしている教えです。神様が自分を愛して下さっているということを受け入れるということは、神様に心を開くことです。そして神に心を開いていく時、人にも心を開いて行くことになります。

私たちの心が開かれる時に、私たちは臆することなく、求め、探し、叩いていくことが出来ます。そして他者に対しても、自分のして欲しいと思うことを人にもしていけるようになるのです。

そのためにまず自分の心を一杯に開いていくことに努めてください。そしてそのために何時からでも、やろうと思えばすぐに実践可能なことがあります。

4. 挨拶は自分の心を開く鍵

もう一箇所、イエスの教えを聖書からお読みします。マタイによる福音書5：47

「自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるのか。(マタイ5：47)」兄弟や友だちには皆さんも当たり前前に挨拶するでしょう。挨拶するのに躊躇いや、気恥ずかしさ、不安などは全くない筈です。しかしまだ見知らぬ人に自分から挨拶するのは、少し勇気がいるのではないのでしょうか？しかし新たな出会いを求めていくなればその勇気が必要になります。ことにこの火曜日に入學して、これからここで新たな出会いを求め、人間関係を築いていこうという時、この挨拶ということはとても大切なことです。

今日、お話ししたいことは、結論から申しますと、「皆さん、元気よく挨拶をしましょう」の一言です。そして心に留めて頂きたいのは、挨拶は、相手の心を開くためというより、まずは何よりも自分自身の心の扉を開く鍵になるということです。そして自分の心が開く時に、皆さんに対して開かれている多くの人々や存在が必ず見えてくることになります。

しかしそうは言っても、最初は「何時？何処で？誰に？」に「あいさつ」すればよいのでしょうか？そこで一つ「こつ」をお教えします。朝、皆さんがこの学院の門をくぐる時に、またはバスを降りてきた時、守衛室の方々に元気よく、「おはようございます」と挨拶してみてください。そして帰りぎわ、門を出るときに、守衛室に向かって「さようなら、失礼します」と挨拶していくということ。それを続ければ、自分の心が開いていくのが自分でも感じられる筈です。そしてその先には必ず新たな出会いが待っています。

朝、この学院の門をくぐる時、そしてこの学院の門から出るとき、そこで元気よく「おはようございます」、「失礼します」、「さようなら」の挨拶をすること、これは礼儀正した云々よりも、それによって皆さんお心が伸びやかに広がっていくことです。この大学の前身の松蔭女学院のスクール・モットーとして「オープン・ハート」（心を開く）という言葉があります。今日、早速、帰り際には「さようなら」といって門を出て行くことを、是非、実践してみてください。